

40373

教科書文庫

4
1760
31-1918
01304
49468

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

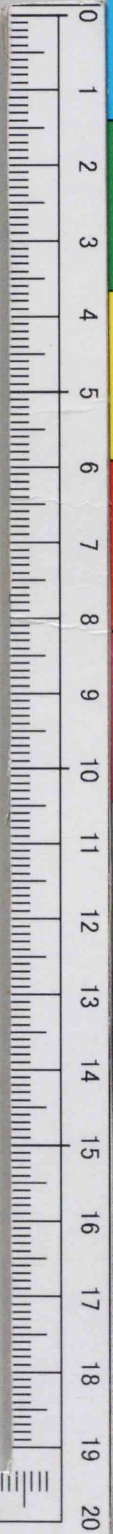
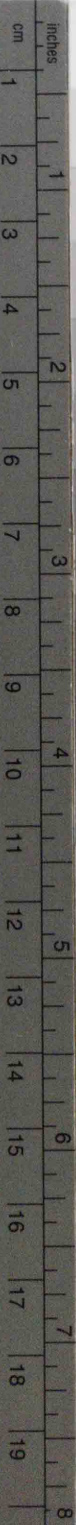


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



革 拔

定國教科書準據

尋常小學唱歌

諸教科統合



第六學年



中央図書館

拔萃 尋常小學唱歌

第六學年

東京高等師範學校教諭 大橋銅造
學習院 教授 納所辨次郎 共編
東京高等師範學校教諭 田村虎藏

發賣所

株式會社
國定教科書共同販賣所

広島大学図書

0130449468



尋常小學校唱歌

文部省検定済となりし尋常小學校唱歌、並に、高等小學校
用として、同四十一年八月五日、文部省検定済となりし高等小
學唱歌【第一・二學年】の教材中より、現今の唱歌教授に、最も適切
なるものを拔萃して、各學年毎に合本したるものなり。

緒言

- 一、本書は、尋常小學校唱歌科教師用として、明治三十九年十月九日、**文部省検定済**となりし『尋常小學校唱歌』、並に、高等小學校教師用として、同四十一年八月五日、**文部省検定済**となりし『高等小學校唱歌』【第一・二學年】の教材中より、現今の唱歌教授に、最も適切なるものを拔萃して、各學年毎に合本したるものなり。
- 二、教材は、尋常小學校第一學年より、同第六學年に至るまで、之を各學年、各學期に配當し、序を追ひて教授するに適せしめたり。
- 三、歌詞の假名遣が、現行小學校讀本と一致せざる所あるは、當初、文部省の檢定を経たるまゝを襲用したればなり。實地教授の際、其の心して取扱はれんことを望む。

四、當時の高等小學第一・二學年は、即ち、現今の尋常小學第五・六學年に相當せり。されば、今回の拔萃合本を期として、其の名義を改め、以て、彼此の混同を避けたり。

五、本書出版以來、年既に久しく、夙に絶版の状態にありき。しかも江湖の需要、今猶衰へずして、之が供給を希望せらるゝこと、其の數少からず。此を以て、本發行者は、本書を複製して、此の要求を充たさんことを謀り、編者と原發行者との同意を得て、茲に、此の合本を刊行するに至れり。一言を附して其の由來を述べること此の如し。

大正三年三月十日

編者識

尋常小學唱歌

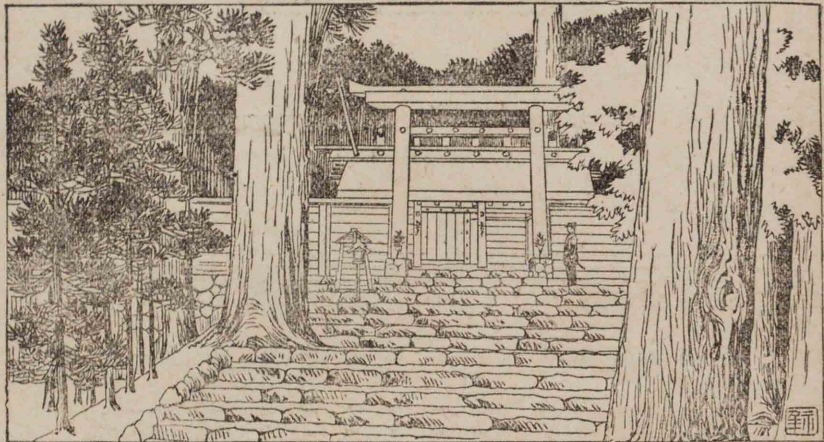
第六學年

目次

第一學期	
一 伊勢神宮	三
二 蟻と蜂	五
三 朋友	八
四 京都市	一
五 高田屋嘉兵衛	一五
六 川中島	一七
七 須磨・明石	一九
八 織田信長	二三
九 蟻と小兒	三五
一〇 船上山	三七
第二學期	
二 瀬戸内海	元
三 リンコロン	三
第三學期	
三 御稜威の光	三
四 徳川光圀	七
一五 保護鳥	一〇
一六 軍港	一四
一七 徳川吉宗	一八
一八 遠洋漁業	二〇
一九 櫻田門外	二四
二〇 井上でん	二七
二一 北海の富源	三〇
二二 西郷隆盛	三三
二三 新高山	三五
二四 白虎隊	三六
二五 創立紀念日	三九

目次

一



一、五十鈴の川水、流さやかに、
 神路のみ山は、老杉深し。
 皇國を守る

二、さやけき流に、心を清め、
 老杉しげれる 木かげを行けば、
 見ゆるもたふと、

たふとき宮居。」

伊勢神宮

佐々木氏

伊勢神宮

(は調四拍子)

誠ヲ込メテ

J.Gersbach.



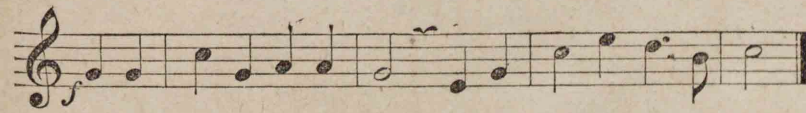
1 3 | 5.3 2 3 4 5 | 4 3 3 5 5 | 1.7 6 5 4 3 | 2- |

1. イ ス ズノカ-ハ- ミ-ヅ ナガ レサヤ-カ- ニ
2. サ ヤ ケキナ-ガ- レ-ニ ココ ロナキ-ヨ- メ



5 7 | 2.7 6 7 | 1 2 | 1 7 7 2 5 | 3 1 7 6 7 | 5- |

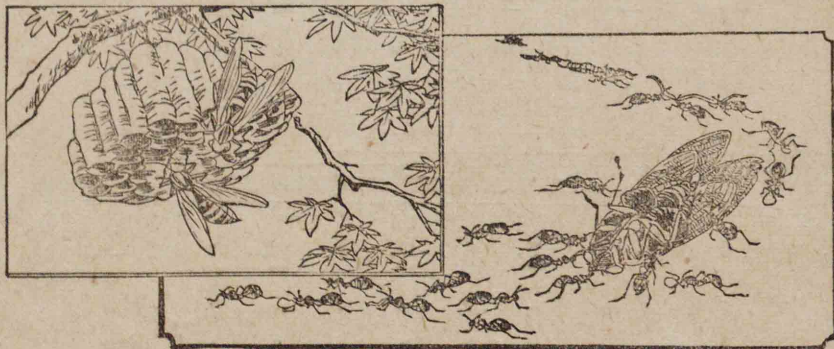
カ ミ ゲノミ-ヤ- マ-ハ ロー サンフカ- シ
ロ - サンシ-ダ- レ-ル コカ ゲチユケ- ヌ



5 5 | 1 5 6 6 | 5 - 3 5 | 1 3 2. 7 | 1- ||

ミ ク ニ ナ マ モ ル タ フ ト キ ミ ヤ キ
ミ ユ ル モ タ フ ト 、 、 、 、 、 、

一、土もさくる 夏の庭に、
 急ぎまどふ 小蟻の、
 冬のそなへ はやもするか、
 運ぶよ、運ぶよ、 その餌を。
 二、斧も持たず、 墨もうたで、
 わが家つくる 小蜂の、
 何の神の わざかうけし、
 人さへ及ばぬ たくみよ。』



蟻と蜂
大和田氏

蟻と蜂

(は調四拍子)

快活 =

T. Moore.

mf

5-3 1 | 6. 5 5- | 4. 3 4 5 6 7 | i-5 0 |

1. ツーチモ サク ルーナ ツノ ニー ニー ハーニ
 2. ナーノモ モ タ スー ス ミ モー ウー ターテ

p

3-3 3 | 4. 4 6- | 5- + 4. + 4 | 5- 0 |

イーソギ マ ド フー コー ア リ ノ
 ワーガ ヤ ッ ク ルー コー ベ チ ノ

mf

i-7 6 | 5. 4 3 0 | i-2 i 7 6 | 5. 4 3 0 |

フーニソ ナヘ ハーヤーモースルカ
 ナーニソ カミノ ワーザーカーウケン

5 3 2 i | i 6 6 4 | 3- 2. 1 | 1- 0 ||

ハコアヨ ハコアヨ ソーノエチ
 ヒトサヘ オヨバメ タークミヨ

朋 友

(へ調四拍子)

朋

友



1. ソ ノ フ ニ ア ソ ア コ チョー — モ
2. イ ツ ハ ル ト モ ニ ヨ リ テーゾ



5 | 5. 6 7. 6 5. 4 3. 2 | 1 3 2 |
ウ レ シ ヲ ニ ミ ユ ト モ ア レ バ
■ キ ニ ア シ キ ニ ヲ ツ ル テ フ



ト モ ハ コ ノ ヨ ノ ナ グ サ — メ
キ サ イ ノ ミ ヤ ノ ミ コ ト — バ

七



5 | 5. 6 7. 6 5. 4 3. 2 | 1 — 0 |
ナ キ ア ト マ テ ノ タ ノ ミ
△ ネ ニ ア — テ テ ナ モ ハ

朋 友

(つづき)

朋

友



3 | 5. 4 4. 2 2. 7 7 5 | 1. 3 5 |
△ ツ ビ ソ メ テ ハ ナ カ タ エ ズ
ト モ ト ス × キ ハ イ ツ ハ ラ ズ



3 | 5. 4 4. 2 2. 7 7 5 | 1 3 2 |
タ ノ シ キ ニ ツ ケ ウ キ ニ ツ ケ
ナ リ ハ ヒ ハ ヲ ミ ヨ チ ナ モ ヒ



0 5 | 1. 7 1. 2 3. 2 3. 4 | 6 — 5 |
マ コ コ ロ ナ コ ソ カ ハ サ — メ
コ コ ロ ケ ダ カ ク ナ チ シ — ク

六



5 | 5. 6 7. 6 5. 4 3. 2 | 1 — 0 |
サ レ バ ハ ツ メ ニ エ ラ ベ
△ ノ レ ニ カ タ ヂ ヒ ト ヨ



第一章

一、園生に遊ぶ

胡蝶も、

嬉しげに見ゆ、友あれば。

友はこの世のなぐさめ、

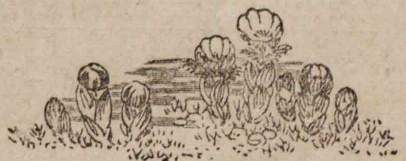
なきあとまでのたのみ。

睦ちむびそめては、なか絶えず、

樂しきにつけ、うきにつけ、

真心をこそか交はさめ。

されば、はじめにえらべ。



三、交はる友に よりてぞ、

善きに悪きに 移るてふ。

きさいの宮の みことば、

むね後に あてて 思へ。

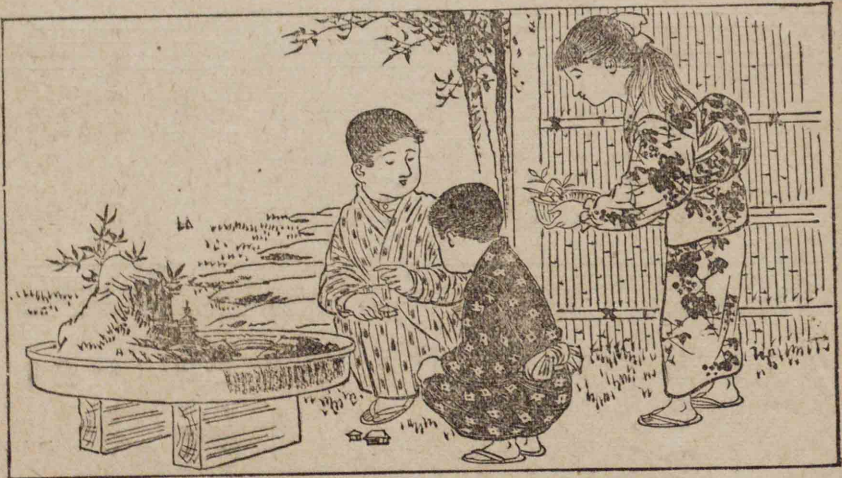
友とすべきは いつはらず、

なりはひ勵生業み 世を思ひ、

心けだかく ををしく、

おのれ己に かた克ん 人よ。』

朋友



京都市

(へ調二拍子)

快活ニ

田村氏

1. 2. 3. 4.

1. 1. 5. 5. 1. 1. 3. 3. 2. 1. 6. 1. 2. 0 |
 1. 2. 3. 4. 1. 2. 3. 4. 1. 1. 3. 3. 2. 1. 6. 1. 2. 0 |
 1. 2. 3. 4. 1. 1. 3. 3. 5. 5. 6. 6. 5. 3. 5. 0 |
 1. 2. 3. 4. 1. 1. 3. 3. 5. 5. 6. 6. 5. 3. 5. 0 |
 1. 1. 6. 6. 5. 5. 3. 3. 2. 3. 2. 1. 6. 0 |
 1. 1. 6. 6. 5. 5. 1. 1. 2. 2. 3. 2. 1. 0 |
 1. 1. 6. 6. 5. 5. 1. 1. 2. 2. 3. 2. 1. 0 |

京都市

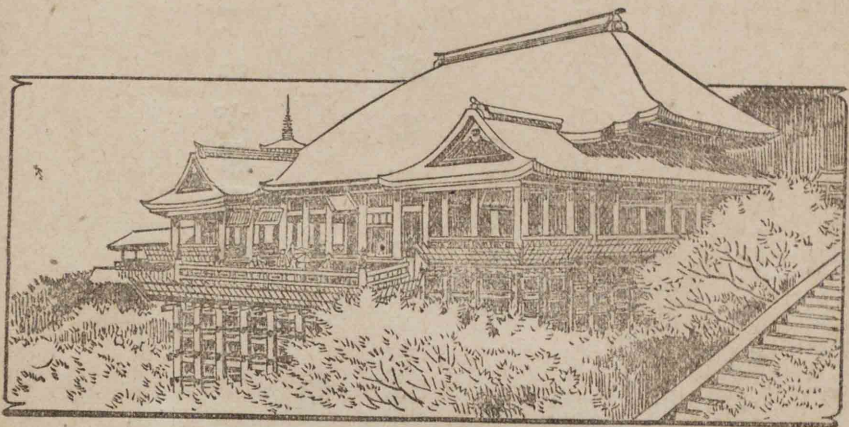
大和田氏

一、わが帝國の 公園と、
 海の外^{ほか}まで 聞えたる、
 花の都の 京都市は、
 いづこを見ても よき處。

二、東の方には、 蒲團^{ふとん}きて、
 ねたる姿^{すがた}の 東山、
 山むらさきに 霞^かむ日の、
 ながめも飽^あかず、月もよし。

三、麓^{ふもと}にならぶ 名所^{なごころ}は、
 祇園^{ぎん}・清水^{しみず}、知恩院^{ちおんいん}
 釣鐘^{つりかね}見たる かへりには、
 音羽^{おんは}の瀧^{たき}も あびてこん。

四、大佛 三十三間堂、
 豊國神社を うち過ぎて、
 伏見^{ふし}に行けば 稻荷山^{いなばり}、
 鳥居^{とりい}は赤く 杉青^{すぎあお}し。



五、また溯る 鴨川の、

三

四條河原の 夕すすみ、

ここより下賀茂 ほど近し、

くれぬ間に 詣でこん。

六、北は北野の 梅のころ、

平野御室の 花ざかり、

今は道路も よくなりて、

高雄の紅葉 遠からず。

七、嵯峨の釋迦堂 小倉山、

名残のこして うち渡る、

都の西の 大堰川、

くだす筏も 数しらす。

八、川の向は 嵐山、

花の雲間に 立ちまじる、

松の緑も 色はえて、

春のながめぞ たぐひなき。」

九、榮花を極めし 足利の、

歴史のあとを 今もなほ、

残すは金閣、銀閣寺、

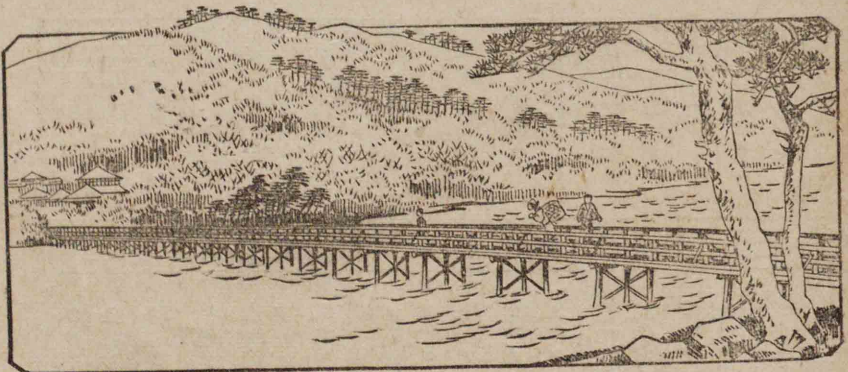
北と東の 山もとに。」

十、ああ千年の 帝都の地、

見るものごとに、古の

人に逢ひたる 心地して、

樂しき處は 京都市ぞ。」





一、北海、波は あらくして、

千島のほとり 露艦出沒。

海防、人は さわけども、

施す道の 更に知られず。

あやふし、あやふし、國は累卵。

三、憂慮、國家につくさんと、

ふるひて立てり、高田屋嘉兵衛。

折衝、事は 治まりて、

日露のうらみ、晴れて跡なし。

いさまし、いさまし、いさをは不朽。

高田屋嘉兵衛

田 氏



高田屋嘉兵衛

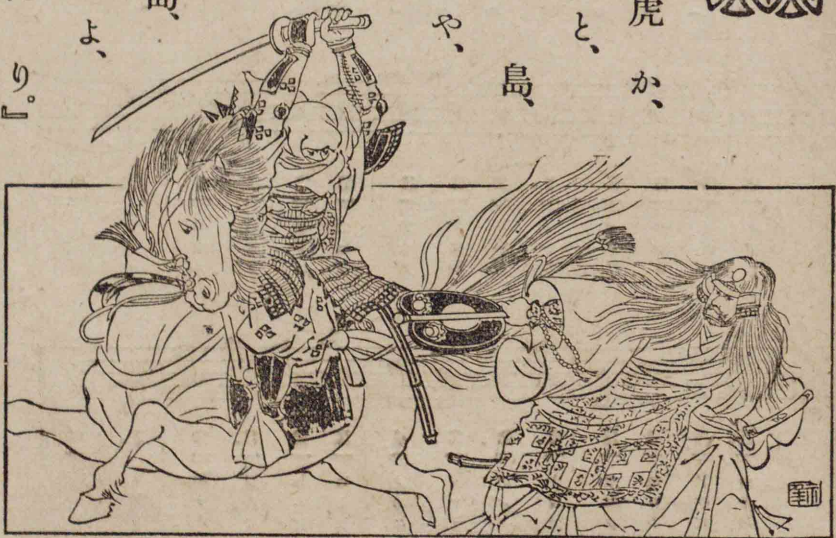
(へ調三拍子)

勇 壯 =

内 田 氏

Musical score with five systems of notation, including treble clefs, notes, rests, and numbered lyrics in Japanese.

一、雨呼ぶ龍か、風呼ぶ虎か、
 上杉勢と、武田の兵と、
 向ひて陣す、川中島
 勝負いかに、見よや、見よや、
 互に決死の勇士あり。
 二、川霧はれて、敵前にあり、
 武田は亂れ、上杉乗ず。
 されども、遂に川中島、
 勝負見えつ、あれよ、あれよ、
 謙信北に走りたり。



川中島 ★ 大和田氏

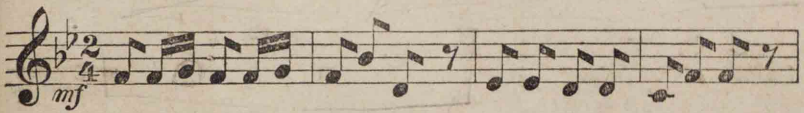
川中島

(變ろ調二拍子)

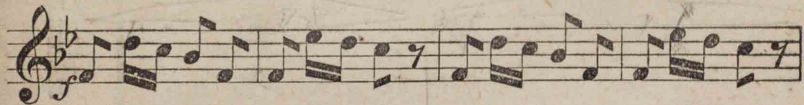
勇マシク

西洋曲

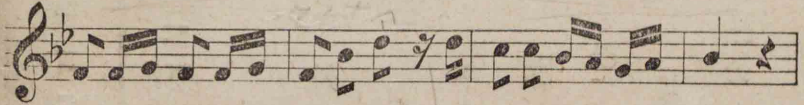
川中島



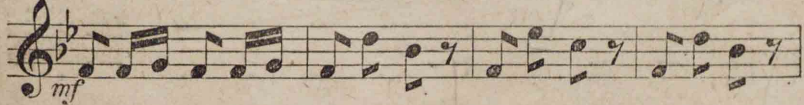
5 5 6 5 5 6 | 5 1 3 0 | 4 4 3 3 | 2 5 5 0 |
 1. アメーヨブー タツカ カセヨブ トラカ
 2. カハーギリー ハレテ テキマヘ ニアリ



5 3 2 1 5 | 5 4 3 2 0 | 5 3 2 1 5 | 5 4 3 2 0 |
 ウヘー スギ セイ ト タケダノ ヘイ ト
 タケダハ ミダレ ウヘー スギ ジョーズ



5 5 6 5 5 6 | 5 1 3 0 3 | 2 2 1 7 6 7 | 1 0 |
 ムカヘテ ジン スカ ハナカージ マ
 サレドモ ツロニ 、 、 、 、 、



5 5 6 5 5 6 | 5 3 1 0 | 5 4 2 0 | 5 3 1 0 |
 カチマケ イカニ ミヨヤ ミヨヤ
 、 、 、 、 、 ミエツ アレヨ アレヨ



5 5 6 5 5 6 | 5 3 1 0 | 5 4 2 7 | 1 0 ||
 タガヒニ ケツシ ノ ユーシア ヲ
 ケンシン キタ ニ ハシリタ ヲ



一、松は緑に、砂白く、
風景すぐるる 須磨の浦。
磯邊に、出でて、貝拾ふ
子どもながめの一つなり。

二、帆かけて、出づる舟多く、
朝海にきはふ 明石の潟。
明石の城も、人麻呂の
社も、木の間に、見ゆるなり。

三、海のあなたに、いと近く、
見ゆる陸地は 淡路島。
通ふ汽船の 笛の音も、
涼しく、波に、ひびくなり。」

須磨・明石

(と調二拍子)

優美ニ

納所氏

須磨・明石



| | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|----|---|---|---|----|---|---|---|----|---|
| 5 | 5 | 6 | 5 | 1. | 2 | 3 | 3 | 2. | 1 | 2 | 3 | 2. | 0 |
| マ | カ | ツ | ハ | ミ | ド | ラ | ニ | ス | ナ | シ | ロ | ク | |
| ホ | カ | ケ | テ | イ | ー | ツ | ル | フ | ネ | オ | ホ | ク | |
| ウ | ー | ミ | ノ | ア | ナ | メ | ニ | イ | ト | チ | カ | ク | |



| | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|----|---|---|---|---|---|----|---|----|---|
| 3. | 4 | 5 | 5 | 1. | 2 | 3 | 3 | 4 | 3 | 2. | 3 | 1. | 0 |
| フ | ケ | イ | ス | グ | ニ | ル | ル | ス | マ | ノ | ウ | ラ | |
| ア | サ | ミ | ニ | ギ | ル | ハ | ハ | ア | カ | シ | ガ | タ | |
| ミ | ユ | ル | リ | ク | ク | チ | ハ | ハ | ハ | ヂ | シ | マ | |



| | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|----|---|---|---|---|---|---|---|----|---|
| 2. | 2 | 2 | 5 | 1. | 2 | 3 | 3 | 2 | 2 | 3 | 4 | 5. | 0 |
| イ | ソ | ベ | ニ | イ | ー | テ | テ | カ | ヒ | ヒ | マ | ロ | |
| ア | カ | シ | ノ | シ | セ | ロ | ノ | ヒ | ト | マ | ロ | ノ | |
| カ | ー | ヨ | フ | キ | ケ | ン | ノ | フ | エ | ノ | ネ | モ | |



| | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|----|---|---|---|---|---|----|---|----|---|
| 5. | 5 | 4 | 3 | 2. | 2 | 3 | 4 | 3 | 2 | 3. | 2 | 1. | 0 |
| コ | ド | モ | モ | ナ | ガ | メ | ノ | ヒ | ト | ツ | ナ | リ | |
| ヤ | シ | ロ | モ | コ | ノ | マ | ニ | ミ | ユ | ル | ナ | リ | |
| ス | ズ | シ | ク | ナ | ー | ミ | ニ | ビ | ビ | ク | ナ | リ | |

織田信長

(嬰へ短調四拍子)

織田信長

悲壯ニ 田村氏

3 3 6 1 7. 0 | 1 1 1 1 7 7 7 |

1. クモマヨフ ユフダチハゲシ
 2. ツキキヨシ ウーミモノドケシ
 3. ソラクラ ヂ ホノホハアガル

6 6 6 6 4. 0 | 6. 4 3 2 3 3 3 |

カサテラニ センキノヘイシ
 アツチヤマ シチソノテシユ
 ホンノー ヒヤクノシユヘイ

二

cresc.

6 6 7 1 7. 0 | 1 1 7 6 6 7 7 |

カヲタテテ バイチフクミテ
 ソビエタチ イラカカガヤキ
 スベモナシ トーチレヤツキー

織田信長

(つづき)

織田信長

2. 2 2 4 3 3 3 | 1 1 7. 7 6. 0 |

コケツニムカフ ソノタシキ
 アタリチハラフ ソノイフー
 ヲガコトヤー Δ アナイコソ

3 3 4 3 2 2 3 | 4 4 7 6 4 0 |

イマガハノミカヤガテコノ
 オーニソコノカタケガレツル
 キーミノミタテトタノメルチ

二〇

6 4 3 2 2 3 3 | 6 6 7 1 7 3 6 0 ||

アメノシタチモノーミツペーシ
 ミヤコノウチトーチリサヘウセヌ
 アダニキエユクイノチソチシキ

織田信長 大橋氏

一、雲迷ふ、夕立烈し、笠寺に、

千騎の兵士 驅り立てて、

枚をふくみて 虎穴に向ふ、

その膽氣

今川のみか やがてこの、

天の下をも 呑みつべし。」

二月 清し、うみものどけし、

安土山

七層の天主、聳え立ち、



いらか輝き あたりを拂ふ

その威风

應仁このかた 汚れつる、

都の内、外 塵さへ失せぬ。」

三、空暗し、ほのほはあがる、

本能寺

百餘の守兵、術もなし、

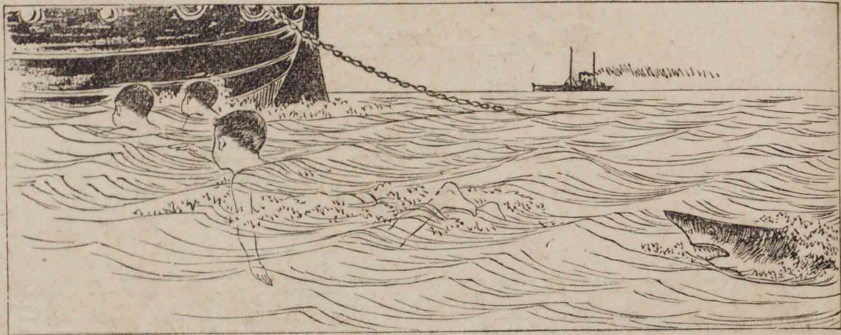
刀折れ、矢つき、わがこと休む、

あな遺恨

君のみ楯と たのめるを、

あだに消えゆく 命ぞ惜しき。」





鱻と小兒

一、**鱻!** **鱻!**
 絶叫の聲 甲板に
 少年どもは かくとしも、
 しら波きって 抜手の
 競争。

二、**鱻!** **鱻!**
 船長の聲はひびけり、
 少年どもは ちりちりに、
 本船さして およいで
 もどる。

三、早く! 早く!
 ふかはすでに
 せまりぬ、五六間。
 最後になりし 少年の、
 親の砲手は 氣も
 狂亂。

四、ズドーン、一發
 砲煙のはるる遅しと
 見渡せば、
 少年の身の 無事よ、
 めでたさ。

鱻と小兒 石原氏

鱻と小兒

(と調二拍子)

快活ニ

田村氏

Musical score for '鱻と小兒' in 2/4 time, composed by Tanimura (田村氏). The score consists of four staves of music with corresponding lyrics in Japanese and Romanized characters below each staff.

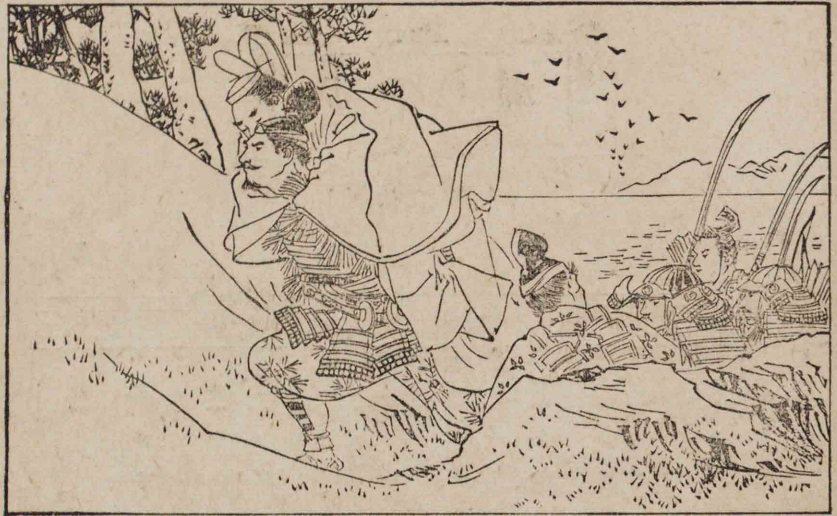
Staff 1:
 1. フ、カ、フ、カ、ゼ、キ、ノ
 2. ハ、ヤ、ハ、ヤ、セ、チ、ノ
 3. ハ、ク、フ、ク、セ、チ、ノ
 4. ズ、ク、ハ、ク、ホ、カ、ン

Staff 2:
 1. コ、エ、カ、ン、バ、ン、ニ、ミ、チ、ワ、タ、ル、ヘ
 2. コ、エ、カ、ン、バ、ン、ニ、ミ、チ、ワ、タ、ル、ヘ
 3. コ、エ、カ、ン、バ、ン、ニ、ミ、チ、ワ、タ、ル、ヘ
 4. コ、エ、カ、ン、バ、ン、ニ、ミ、チ、ワ、タ、ル、ヘ

Staff 3:
 6. シ、ネ、ン、ド、モ、ハ、カ、ク、リ、ト、モ、ヘ
 6. シ、ネ、ン、ド、モ、ハ、カ、ク、リ、ト、モ、ヘ
 6. シ、ネ、ン、ド、モ、ハ、カ、ク、リ、ト、モ、ヘ
 6. シ、ネ、ン、ド、モ、ハ、カ、ク、リ、ト、モ、ヘ

Staff 4:
 6. シ、ラ、ナ、ミ、キ、サ、テ、ノ、ハ、キ、モ、メ、キ、ラ、タ、ソ
 6. シ、ラ、ナ、ミ、キ、サ、テ、ノ、ハ、キ、モ、メ、キ、ラ、タ、ソ
 5. ナ、ミ、キ、サ、テ、ノ、ハ、キ、モ、メ、キ、ラ、タ、ソ
 5. ナ、ミ、キ、サ、テ、ノ、ハ、キ、モ、メ、キ、ラ、タ、ソ

鱻と小兒



雄雄ををしきそのしわざ、人のかがみ、
たふときそのいさを 臣のかがみ。』

船上山に 守護申す。

すくひまつりて 伯耆なる、

忠義に こりし 長年が、

あはれ あはれ。」

かしこき おんすがた、

かしこきみありさま、何といはん、

流されたまふ 隠岐の島、

悪しき心に 後醍醐帝、

執權、北條高時の、



船上山

(と調二拍子)

快活ニ

西洋曲

Musical score for '船上山' (Fune no Ue no Yama), a Western-style song in 2/4 time. The score consists of five systems of music, each with a vocal line and a piano accompaniment line. The lyrics are written below the notes.

1. シ ッ ケ ン ホ ー ショー ダ カ ト キ ノ
2. チュ ー キ ニ コ リ シ ナ ガ ト シ ガ

2. 3 2. 3 | 2 3 2 | 2 2 3 ヤ 4 | 5 0 |
ア シ キ コ コ ロ ニ ゴ ダ イ ゴ テ
ス ク ヒ マ ツ リ テ ホ ー キ ナ ル

5. 5 3. 1 | 1 6 6 | 5. 5 6 7 | 1 0 |
ナ セ ガ ン サ ヨー タ セ マ ン フ ニ ガ シュ ゴ マ シ マ ス

2 5 | 3 1 | 4. 3 4 6 | 5 3. 5 | 4 2. 4 | 3 0 |
カ シ コ キ ミ ア リ サ マ ナ ニ ト イ ハ ン
チ チ シ キ ソ ノ シ ロ ザ ヒ ト ノ カ ガ ミ

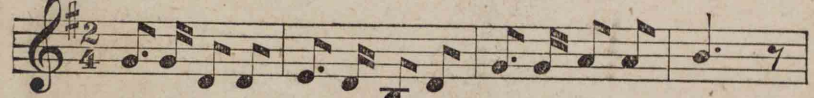
2 5 | 3 1 | 4. 3 4 6 | 5 3. 5 | 4 2. 3 | 1 0 ||
カ シ コ キ ガ ン ス ガ タ ア ハ レ ア ハ レ
タ シ コ キ ソ ノ イ サ タ チ ア ハ ミ ノ カ ガ レ

瀬戸内海

(と調二拍子)

快情ヲ以テ

田村氏



| | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|----|---|---|---|----|---|---|---|----|---|
| 1. | 1 | 5 | 5 | 6. | 5 | 3 | 5 | 1. | 1 | 2 | 2 | 3. | 0 |
| 1. | カ | ウ | ベ | ノ | ミ | ナ | ト | チ | コ | ギ | イ | テ | テ |
| 2. | ヨ | ベ | バ | ー | ニ | タ | フ | ル | ア | ハ | ヤ | シ | マ |



| | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|----|---|---|---|----|---|---|---|----|---|
| 6. | 6 | 6 | 6 | 1. | 1 | 2 | 2 | 6. | 6 | 5 | 3 | 5. | 0 |
| ス | マ | ノ | ー | ウ | ラ | カ | セ | ソ | ヨ | ソ | ヨ | ト | |
| カ | ■ | フ | ー | チ | ド | リ | ノ | コ | エ | ア | ハ | レ | |



| | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|----|---|---|---|----|---|---|---|----|---|
| 5. | 5 | 5 | 5 | 6. | 6 | 5 | 3 | 2. | 3 | 1 | 2 | 3. | 0 |
| マ | ヒ | コ | ノ | ハ | ー | マ | ヤ | ア | カ | シ | ガ | タ | |
| ナ | ニ | タ | カ | サ | ー | ゴ | チ | ミ | ギ | ニ | ミ | テ | |



| | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|----|---|---|---|----|---|---|---|----|---|
| 2. | 2 | 3 | 6 | 5. | 5 | 3 | 3 | 2. | 2 | 3 | 2 | 1. | 0 |
| ス | ナ | シ | ロ | シ | ー | ロ | ト | マ | ツ | ア | チ | シ | |
| ヒ | ー | ダ | リ | ハ | ル | カ | ニ | シ | ョ | ー | ド | シ | マ |

瀬戸内海

二八

瀬戸内海

石原氏



一、神戸の港を こぎ出でて、

須磨の浦風 そよそよと、

舞子の濱や、明石がた、

砂しろじろと 松青し。

二、呼べば答ふる

淡路島

かよふ千鳥の 聲あはれ、

名に高砂を 右に見て、

左はるかに 小豆島

三、鹽やくけぶり

にぎはへる、

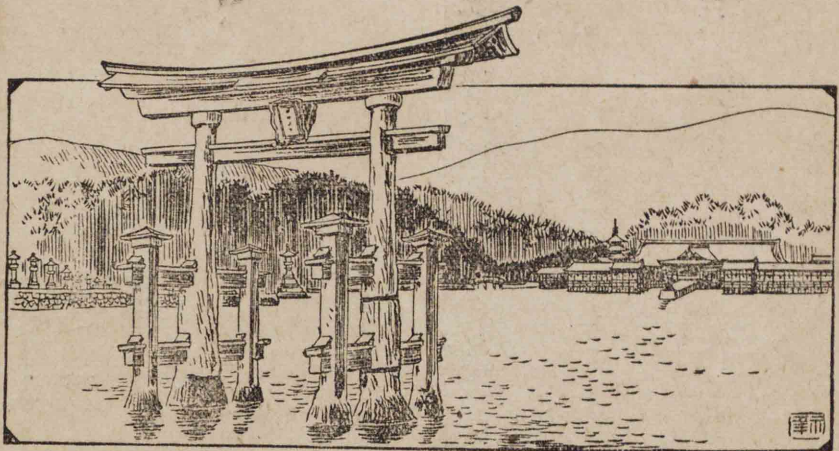
赤穂を過ぎて 玉島や、

鞆の津・尾の道・糸崎港、

大島小島のかずかずを。

瀬戸内海

二九



四、おくりむかへて行くほどに、

三〇

吳は海軍根據の地、

宇品もおなじ要港よ。

いつか着きけり嚴島。

五、波間に立てる大鳥居、

あけに色どる廻廊の、

水にうつれる美しくさ、

げに三景のその一つ。

六、三田尻すぎで壇の浦、

平家の末路をしのびつつ、

馬關は瀬戸の西の口、

むかふの門司も要害地。

七、かへりは四國の海の岸、

三津がはまよりほどもなき、

人まつ山や道後のゆ、

たびのつかれをなくさめん。

八、またもあまたの島嶼を、

おくりむかへて燧灘、

多度津につけば名に高き、

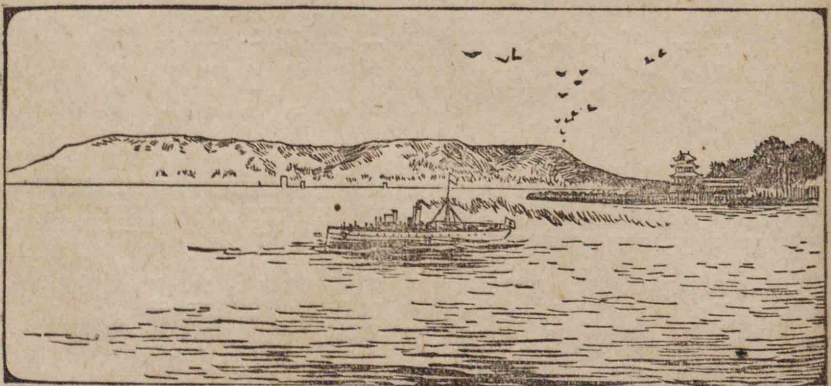
金刀比羅宮も遠からず。

九、さて、高松の東北、

屋島は名高き古戦場、

ながめつきせぬ船路かな、

波しづかなる瀬戸の内。



リンコルン

(に調三拍子)

誠ヲ込メテ

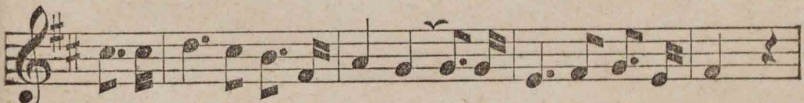
岡野氏



5. 5. 5. 3. 6. 5. 5. 3. 2. 2. 1. 2. 3. 4. 5. 0.
 1. マ ツ シ キ ナ カ ニ モ ガ ク モ ハ グ ミ
 2. タ ダ シ キ ア ト コ ソ カ カ ミ モ タ ス ク レ
 3. コ ト ニ ア タ ー コ リ テ エ イ ダ タ カ ケ ツ



5. 5. 5. 3. 6. 5. 5. 3. 2. 2. 5. 6. 7. 6. 5. 0.
 ク ハ モ ツ ヒ マ ビ モ シ チ バ ナ フ
 ト ク ボ ノ シ ダ イ ニ ヨ ニ タ カ ナ ラ テ
 ド レ イ ノ ア グ ホ ー ハ イ セ カ マ リ メ
 ニ



7. 7. 1. 7. 6. 3. 5. 4. 4. 4. 2. 3. 4. 2. 3. 0.
 ア ハ レ ノ シ ヲ ー ネ ン ヤ サ シ シ ノ コ コ ロ
 ホ セ イ キ ノ オ イ サ グ サ テ ガ ツ ヒ シ ヲ カ ナ ク ノ
 ヲ



5. 5. 5. 3. 6. 5. 5. 3. 5. 5. 1. 1. 2. 7. 1. 0.
 ヒ ト ナ バ イ タ ハ ル フ ガ ミ ノ ゴ ト ク
 ダ イ ナ ハ リ ョ ー ト ヲ ヲ エ ア バ ノ ゴ ト ク
 ツ ノ ナ ハ チ ー ヲ ニ ア ア リ レ イ コ デ ル シ
 ヲ



リンコルン 桑田氏



一、貧しき中にも 學問はげみ、 歛持つひまびま 文字をば習ふ。
 あはれの少年、 やさしの心。 他人をば勞はる 我が身のごとく。」



二、正しき人こそ 神もたすくれ。
 徳望次第に 世に高まりて、
 ほまれよ、推されて、 合衆國の、
 大統領とぞ 選ばれ出でし。」

三、事に當りて、 英斷・果決、 奴隸の悪法、 廢せんために、
 正義の軍、 つひに勝ちぬ。 その名は千代に、 ああ、リンコルン。」

リンコルン

三三

リンコルン

三三

一、國民おぼす 大君の、
 御心ふかく ましませば、
 文教 おこり、
 武備 又ふるふ。
 みいつは内に
 あふれたり。
 うれし、うれし、

この大御代にあひたるは。

御稜威の光

二、よわきをたすけ 邪をこらし、
 仁義の道を ふみませば
 東西 なつき、
 南北 服す
 みいつは外に
 あふれたり。
 うれし、うれし、

この大御代にあひたるは。

三五

御稜威の光
 佐々木氏

御稜威の光

(と調四拍子)

壯嚴 = Mcnaughton.

mf

5 3 3 2 | 1 6 1- | 5. 6 5 3 | 2-0 |

1. ク ニ タ ミ オ ホ スー オ ホ ギ ミ ノ
 2. ヨ ヲ キ ナ タ ス ケー ジヤ コ ラ シ

3. 4 5 3 | 1 6 1- | 5 3 2. 3 | 1-0 |

ミ コ コ ロ フ カ クー マ シ マ セ バ
 ジ ャ ギ ノ ミ ナ ナー フ ミ マ セ バ

mp

7 2 2 2 | 1. 2 3- | 7 2 2 2 | 1. 2 3- |

ア ン キョー オ リー ア ビ マ タ フ ル フー
 ト ザ イ ナ ッ キー ナ シン ボ ク フ ク スー

mf

3. 4 5 3 | 1 6 1- | 5 3 2. 3 | 1-0 | 6-4- | 3-0 |

ミ イ ツ ハ ウ チ コー ア フ レ タ リ ウーレーシ
 ミ イ ツ ハ ソ トー ア フ レ タ リ

rit.

mf

3-1- | 5-0 | 3. 4 5 3 | 1 6 1- | 5 5 4 7 | 1-0 |

ウーレーシ ヨノオホミヨニーアヒタルハ

御稜威の光

三四

三、代よにすぐれし 名士との、
文武の道 備へたる、
水戸の公きみぞ 仰おほがるる。』



明あきの之し瑜ゆが 公きみしなくば 公きみによりて
かしこきも、 たれ知らん。 建てられき。

二、あ、あ、忠臣、その墓も、

一、えらび初はじめし よつぎふみ、
ねむれる世を さまさせて、
大日本史だいほんしの 筆ふでのさき。
臣おんたる道 世よに示しす。』

徳川光圀 越後氏

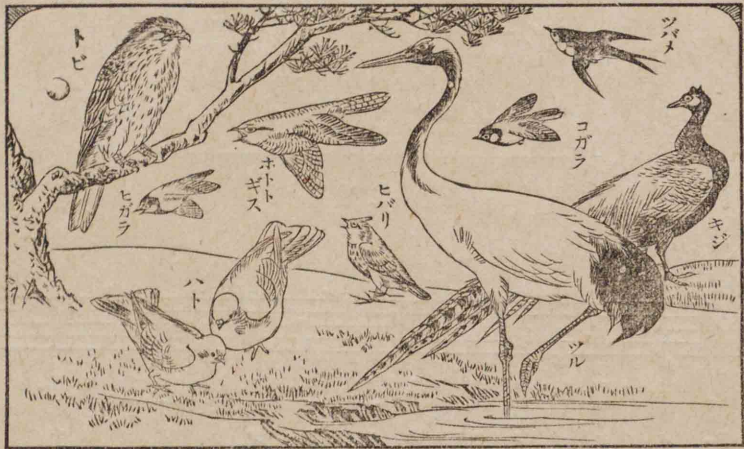
徳川光圀

(變は調三拍子)

誠ヲ込メテ

W.A.Muhlenburg.

Musical score for '徳川光圀' in 3/4 time, featuring a treble clef and a key signature of one flat (B-flat). The score consists of four staves of music with corresponding Japanese lyrics and fingering numbers (1-5) written below the notes. The lyrics are: 1. エアヨ ラアニ ビチュ ス ソーグ メシレ シンシ ヨソメ ツノイ アカト ミモノ 2. ガイキミ ニミコ ホニト シヨノ シリテモ フタク デテダ ノラリ サレタ キキリ 3. ネミア ムン ア レノ ア ルシノ ヨユミ チガチ サカソ マシナ サコヘ セキタ テモル 4. シキミ ンミト タシノ ルナキ ミクミ チバソ ヨデア ニレフ シシガ メラル スンル



一、すみれ花さく 野邊を出でて、
 空に歌ふ 朝雲雀。
 畑の害虫 くひとりて、
 世に益あるは この鳥ぞ。
 二、若葉さしそふ 山を出でて、
 月に名のる ほととぎす。
 農事たすくる 功によりて、
 保護せらるゝは この鳥ぞ。
 三、なほ、この外に 小雀・日雀。
 雉子に燕 鳩に鳶。
 松の梢に 巢をかけて、
 よる啼く 鶴もその内ぞ。』

保護鳥 大和田氏

保護鳥

(ほ調二分の二拍子)

他活ニ

岡野氏

5 1 1- | 2 3 2 1 2 2 | 3 5 5- | 3 4 3 1 2 0 |

1. ス ミ レ ハ ナ サ ク ノ ベ ヲ イ デ テ
 2. フ カ バ サ シ ソ フ ヤ マ チ イ デ テ
 3. ナ ホ コ ノ ホ カ ニ コ ガ ラ ヒ ガ ラ

5 1 i- | 7 i 7 6 | 5- 6. 5 | 3 1 | 2-1 0 |

ソ ラ ニ ウ タ フ ア サ ロ バ リ
 ツ キ ニ ナ ノ ル ホ ト ト キ ス
 キ ツ ニ ツ バ メ ハ ト ニ ト ビ

2. 3 2 3 | 2 3 4 5 2 | 3 2 3 4 5 6 | 5- 0 |

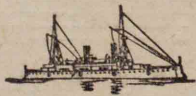
ハ タ ノ ガ イ チュ ク ヒ ト リ テ
 ノ ツ タ ス クル コ ニ ヲ リ テ
 マ ツ ノ コ ズ エ ニ ス チ カ ケ テ

5 i i 7 | 7 i 7 6 | 5- 6. 5 | 3 1 | 2-1 0 ||

ヨ ニ エ アル ハ コ ノ ト リ
 ホ ゴ エ キ ル ハ コ ノ ト リ
 コ ル ナ ク ツ ル ハ モ ソ ノ ヲ リ

一、軍の船を集め浮べ、
 わが日の本の海を守る、
 舞鶴・佐世保、吳・横須賀
 港はかたし、船は強し。

二、四面は海のわが帝國。
 あだなみ、いかに、寄するとても、
 港にかたき守りありて、
 御代は静に、國は安し。



軍港

(と調二拍子)

活潑 =

西洋曲

Musical score for 'Army Port' in 2/4 time, featuring a treble clef and a key signature of one sharp (F#). The score consists of four staves of music with corresponding lyrics in Japanese and Roman letters below each staff.

Staff 1:
 5 | 1. 5 | 1 3 | 1 1 5 | 1. 5 | 1 3 | 5. |
 1. イ ク サ ノ フ ネ チ ア ツ メ ウ カ ベ
 2. シ メ ソ ハ ヲ ミ ノ ヲ ガ テ イ コ ク

Staff 2:
 6 | 5. 6 | 5 6 | 5 3 5 | 5. 4 | 3 2 | 1 0 |
 ソ ガ ヒ ノ モ ト ノ ヲ ミ チ マ モ ル
 ア ダ ナ ミ イ カ ニ ヨ ス ル ト テ モ

Staff 3:
 5 | 7. 7 | 2 5 | 1 3 5 | 7 2 | 4 6 | 5. |
 マ ヒ ツ ル サ セ ホ ク レ ヨ コ ス カ
 ミ ナ ト ニ カ タ キ マ モ リ ア リ テ

Staff 4:
 5 | 5. 6 | 5 6 | 5 3 5 | 5. 4 | 3 2 | 1 0 ||
 ミ ナ ト ハ カ タ シ フ ネ ハ ツ ヨ シ
 ミ ヨ ハ シ ツ カ ニ ク ニ ハ ヤ ス シ

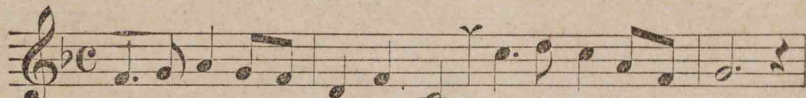
徳川吉宗

(へ調四拍子)

徳川吉宗

田村氏

誠實ニ



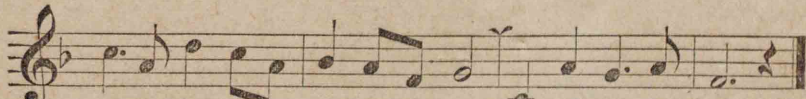
| | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|---|---|----|---|----|----|---|---|---|---|-----|
| | 1. | 2. | 3. | 2 | 1 | 6. | 1 | 5- | 5. | 6 | 5 | 3 | 1 | 2-0 |
| 1. | ソ | ホ | ク | ニ | - | ナ | レ | シ | ト | ク | ガ | ハ | - | ノ |
| 2. | コ | ノ | マ | マ | - | ス | ギ | バ | ト | ク | ガ | ハ | - | モ |
| 3. | キ | ノ | フ | ニ | - | カ | ハ | ル | ヨ | ノ | サ | マ | - | ヤ |
| 4. | ユ | コ | コ | - | - | ノ | シ | ハ | ア | フ | ガ | ル | - | ル |



| | | | | | | | | | | | | | |
|---|----|---|---|---|---|----|---|----|---|---|----|---|-----|
| | 3. | 4 | 3 | 2 | 1 | 6. | 1 | 5- | 1 | 3 | 2. | 3 | 1-0 |
| ナ | ラ | ヒ | モ | - | イ | ツ | カ | ユ | ル | ビ | キ | テ | テ |
| ナ | ガ | カ | ル | - | マ | シ | キ | メ | メ | シ | ト | テ | ニ |
| カ | ミ | ノ | コ | - | ノ | ミ | ノ | ツ | シ | タ | カ | ニ | ノ |
| キ | ミ | ミ | ガ | - | ナ | サ | ケ | ク | ニ | タ | ミ | ノ | ノ |



| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|----|---|---|---|---|---|---|---|----|----|---|---|---|---|-----|
| | 2. | 3 | 2 | 1 | 3 | 2 | 1 | 3 | 2- | 3. | 2 | 3 | 4 | 6 | 5-0 |
| ア | チ | キ | ソ | - | フ | ハ | - | キ | モ | ノ | ノ | フ | - | モ | |
| カ | コ | ツ | ル | - | オ | ホ | - | キ | ヨ | ノ | ナ | カ | - | ニ | |
| ウ | ツ | ル | モ | - | シ | モ | - | キ | ヒ | ヒ | コ | コ | - | ロ | |
| サ | ツ | ン | ヨ | - | イ | ヨ | - | ヨ | ガ | コ | リ | キ | - | テ | |



| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|----|---|---|---|---|---|---|---|----|---|---|----|---|-----|
| | 5. | 3 | 6 | 5 | 3 | 4 | 3 | 1 | 2- | 5 | 3 | 2. | 3 | 1-0 |
| カ | ア | ユ | - | - | キ | - | - | ニ | ヒ | チ | オ | ク | ル | |
| ヨ | シ | ム | - | - | コ | - | - | ハ | タ | タ | レ | タ | リ | |
| キ | ン | ケ | - | - | ノ | - | - | ハ | ア | キ | ソ | メ | メ | |
| タ | イ | ヘ | - | - | ノ | - | - | ト | ナ | リ | ニ | ケ | リ | |

四二

徳川吉宗

蘆田氏

一、そぼくに馴れし 徳川の、

素朴 ならひもいつか ゆるびきて、

習 武を競ふべきものふも、

強 歌舞遊興に日を送る。

二、このまゝ過ぎば 徳川も、

長かるまじきためしとて、

かこつも多き世の中に、

吉宗公は立たれたり。

徳川吉宗

三、きのふにかはる 世の様や、

昨日 上のこのみのいつしかに、

うつるよ、下の人心

勤儉の風吹きそめぬ。

四、中興の主とあふがる、

公がなさけに 國民の

産業いよ、おこりきて、

太平の世となりけり。

四三

遠洋漁業

(に調二拍子)

爽快 ヌ

納所氏



| | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|
| 5. | 5. | 5. | 5. | 6. | 5. | 3. | 1. | 1. | 1. | 7. | 6. | 5. | 0. | | |
| 1. | 2. | 3. | 4. | ニ | ツ | ボ | ン | ダ | シ | ト | ウ | マ | レ | テ | ハ |
| イ | カ | レ | ル | ナ | ン | ミ | ト | タ | マ | マ | カ | レ | ク | ト | ハ |
| ア | ヤ | フ | キ | ミ | カ | チ | ハ | オ | カ | カ | サ | サ | ク | ズ | バ |
| シ | ジュ | ノ | ー | タ | カ | ラ | ハ | ウ | ミ | カ | ニ | ア | サ | ア | リ |
| ユ | ノ | ノ | キ | タ | カ | ラ | ハ | ウ | ミ | カ | ニ | ア | サ | ア | リ |



| | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 6. | 6. | 4. | 4. | 5. | 5. | 3. | 3. | 4. | 2. | 2. | 3. | 1. | 0. |
| フ | コ | ク | ク | ミ | チ | チ | ハ | ハ | カ | ル | ベ | シ | |
| フ | キ | マ | マ | カ | セ | ハ | ハ | ア | ラ | ク | ト | モ | |
| ス | グ | レ | シ | イ | サ | ナ | ア | タ | テ | ラ | レ | ジ | |
| ト | レ | ド | ー | ヒ | ロ | ハ | タ | ツ | キ | モ | セ | ジ | |



| | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 2. | 2. | 3. | 4. | 5. | 5. | 4. | 3. | 6. | 6. | 6. | 6. | 5. | 0. |
| ウ | ー | ミ | ニ | ム | ジ | ン | ノ | ト | ミ | アイ | リ | テ | |
| キ | マ | タ | ニ | ミ | ナ | ミ | ニ | コ | ギ | イ | テ | テ | |
| シ | マ | カ | ゲ | ミ | エ | エ | ノ | ト | コ | ロ | テ | テ | |
| オ | モ | ヘ | ヤ | エ | ー | モ | ノ | ウ | ウ | ツ | ミ | テ | |



| | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 1. | 1. | 5. | 5. | 6. | 6. | 3. | 3. | 4. | 2. | 2. | 3. | 1. | 0. |
| ナ | ミ | ゲ | ニ | ユ | カ | レ | ヌ | ト | コ | ロ | ナ | シ | |
| ス | ナ | ダ | ル | イ | ザ | モ | ル | ク | ニ | ノ | タ | メ | |
| コ | ゲ | ヤ | ー | ナ | ヘ | ナ | ル | ワ | ガ | フ | ネ | チ | |
| カ | ヘ | ル | ー | ナ | ミ | ナ | ノ | ユ | カ | イ | サ | チ | |

遠洋漁業

*

讀國

本定

一、日本男子と生れては、

富國の道をはかるべし。

海に、無盡むじんの富ありて、

波路に、行かれぬ所なし。

二、怒れる波は高くとも、

吹きまく風はあらくとも、

北に、南に漕ぎ出でて、

すなだるわざも國のため。

三、危き道をおかさずば、

勝れし功は立てられじ、

島かげ見えぬ所まで、

漕げや、家なるわが舟を。

四、種々の寶たからは海にあり、

取れど、拾へどつきもせじ。

思へや、獲物あつものうち積みて、

歸る波路の愉快さを。

櫻田門外

(と短調四拍子)

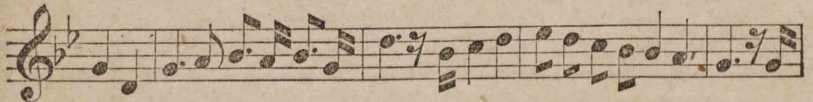
悲壯ニ

佛國曲.



6 3 | 6. 7 1. 7 1. 6 | 3. 0 1 2 3 | 4 3 2 1 7 3 | 1 6 0 |

- 1. サク ラダ モンガイ ノ ユキチ オカシテ スス ミシ
- 2. ワガ クビキラルト モ イカデ カフベキワガセツ



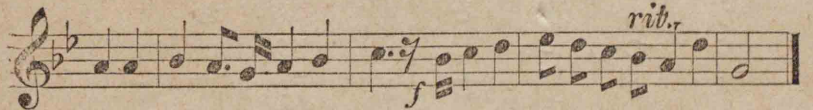
6 3 | 6. 7 1. 7 1. 6 | 3. 0 1 2 3 | 4 3 2 1 1 7 | 6. 0 6 |

- マス ラチ ジュー ハチ シ ツヒニ カモンチ サシ ヌ コ
- ダン シノ トルト コ ロ カタキ イハホノゴト シ



mf 7 7 | 1 7. 6 7 1 | 2. 0 1 2 3 | 6 7 1 2 1 7 6 | 6 5 0 6 |

- ホリ ナセルヤイ バ サクラヨリモアカキチ シホミ
- シヤ ソノミハルノ ユキトトモニキエヌトテモキ



7 7 | 1 7. 6 7 1 | 2. 0 1 2 3 | 4 3 2 1 7 3 | 6 - |

- ヨヤ ヨヨニノ コ ス イシンレキシノカタミ
- エズクチヌナコソ ヨヨチテラシヒカリ

櫻田門外

大和田氏

一、櫻田門外の

雪を侵^{おが}して進みし、

ますらを十八士、
大丈夫

つひに掃部^かを刺しぬ。

氷なせる双^{たふ}、

櫻よりも赤き血しほ、

見よや、世々に残す、

維新歴史の形見^{かたみ}。』

櫻田門外

二、わが首^{くび}きらるとも、

いかでかふべきわが説^{せつ}。

男子の執^とるところ、

かたき巖^{いはは}のごとし、

よしや、その身、春の

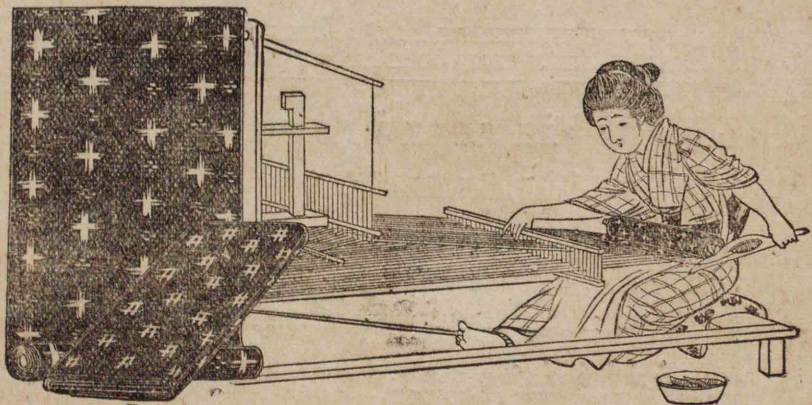
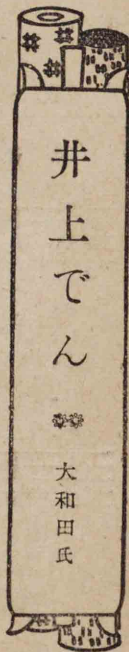
雪と共に消えぬとても、

消えず、朽ちぬ名こそ、

世々を照らす光。』

四七

一、引き出だす 白き糸
 織り出だす 井の字形
 心を留むる 人ありて、
 名高き布と なりにけり。
 譽は高し、 久留米がすり。
 功は高し 織り出し、人。
 一、壺の藍の汁、
 心をこらす 人ありて、
 よき物産と なりにけり。
 その名はひびく、 久留米の里。
 忘るな人よ、 織り出し、人。



井上でん

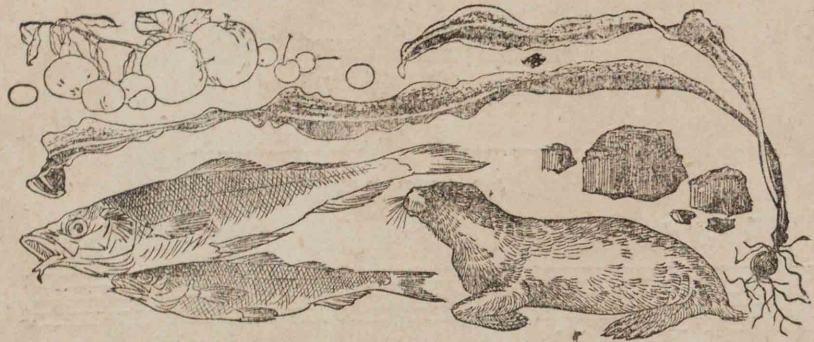
(へ調三拍子)

温和ニ

田村氏

井上でん

Musical score for 'Inoue Den' in 3/4 time, G major. The score consists of five staves of music with corresponding lyrics in Japanese and Romanized characters below each staff. The lyrics are: 1. ヒキイダス シロキノト オリイダス キノシガタリ 2. ヒトツボノ アイノシル ヒトハタノ カスリガリ



北海の富源

北海の富源
桑田氏

一、北なる蝦夷島 廣さは九州の、
 二倍にあまりて、平野、目も遙かに、
 石狩・十勝の、大河にうるほひ、
 地味肥え、殖産、牧畜ゆたけし。
 二、石炭・砂金は、とれどもつきせず、
 四邊の漁場は、世にもまた名高し。
 山には山さち、海には海さち、
 無限の富こそ、ここにし得られる。』

北海の富源

(は調四拍子)

快活ニ

C. A. Mason.



5. 4 | 3 3 3 2 1 | 5 6 7 1 7 6 | 5. 6 3 2 1 | 3. 2 2 |
 1. キー タナルエー ソシマロー ロサハキュー シューノ
 2. セー キタンシャー キンハト レドモツ キセズ



5. 4 | 3 3 3 2 1 | 5 6 7 1 7 6 | 5 5. 6 3 1 | 2. 1 1 |
 ニー マイニア マリーテヘー イヤメモハルカニ
 シー ヘンノギョー ジョーハヨー ニモマタナダカシ



1. 2 | 3 2 1 2 1 7 | 6 5 6 7 1 7 6 | 5. 6 3 2 1 | 3. 2 2 |
 イー シカーリト ガーチノターイガニウールホヒ
 ヤー マニーハヤー マーサーチウーミニハワー ミサチ



1. 2 | 3 2 1 2 1 7 | 6 5 6 7 1 7 6 | 5. 6 3 1 | 2. 1 1 |
 チー ミョーエショークーサーンホークチクユタケシ
 ムー ゲンノトー ミーコーソコー コニシエラルレ

北海の富源



一、波風さわぐ 世にあひて、
 漕ぎ行くさきも 見えわかず。
 無念、無念、空は暗し。
 棹かち折れし 薩摩 瀉、
 ゆくへや南海、一 孤島。

西郷隆盛
 大橋氏

二、いにしへ人を 友として、
 研く心も 君がため。
 愉快、愉快、時は來ぬ。
 思ひたのめる かひありて、
 遂げ得し維新の 大 功 業。
 三、名利を外そとの 山 遊 び、
 松風、耳を 洗ふ間に、
 遺憾、遺憾、事は去りぬ。
 身も、教へ子も 白露の、
 消えにし城山しろやま、秋寒し。

西郷隆盛

(は調四拍子)

男マシク 田村氏

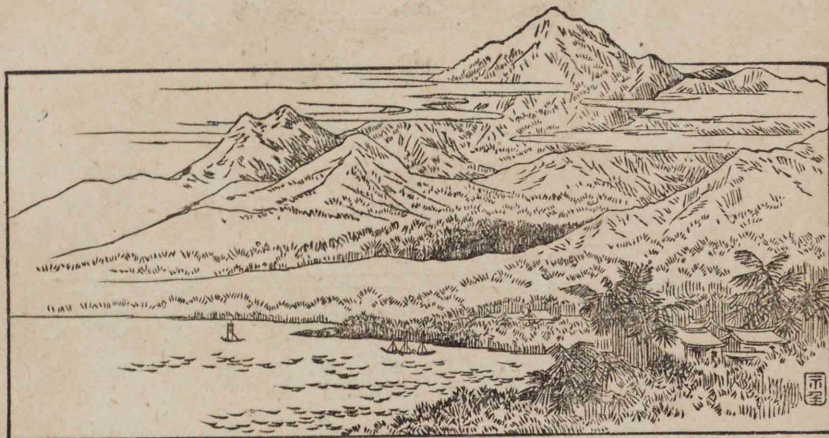
1. ナイ ミニ カシ ゼヘ サビ ソト グー ヨー ニ ア ヒー テ
 2. ナイ ミニ カシ ゼヘ サビ ソト グー ヨー ニ ア ヒー テ

3 3 5 3 | 6 6 5 | 4-3 2 | 3-1 0
 コミ ギー ユカ ク サキ モー ミー エ ソ カー ズ
 ユカ ユカ ユカ ユカ ユカ ユカ ユカ ユカ ユカ ユカ

5 1-7 | 6 6 5 0 | 4-4 6 | 5 5 3 0
 ムネン ムネン ソーラハ クラシ
 ユカイ ユカイ トキハ キーヌ

5. 5 1 7 | 6 6 5- | 6. 5 6 1 | 2- 0
 サチカゲチレ シーサツマ ガリ タ
 オーモヒダノメル カヒ ア リ テ

3. 2 1 1 | 2 2 5 5 | 6 5 3. 2 | 1- 0 ||
 ユトクヘ ヤシ ナイ シン カン イノ イダ ッ コ トー ギョー



一、高さ一万四千尺餘
富士の神山の、高きをしのぎて。
ああ、臺灣の新高山、
わが日の本の あはれ 最高山。
二、あやに畏きすめらぎみの、
天皇
その名を賜へる、新高山の、
巍峩たる姿國のしづめ、
けだかしたふとあはれこの山。』

新高山
武島氏

新高山

(變ろ調一拍子)

爽快ニ

西洋曲

mf

1. $\dot{1}$ $\dot{1} \cdot \dot{2}$ $\dot{3}$ $\dot{4}$ $\dot{5}$ $\dot{6}$ $\dot{5}$ $\dot{3}$ $\dot{3}$ $\dot{2}$ $\dot{1}$ $\dot{7}$ $\dot{1}$ $\dot{0}$

1. タ カ サ イ チ マ ー ン シ セ ン シ ヲ
2. ア ヤ ニ カ シ コ ー キ ス メ ラ ギ ミ ヲ

$\dot{5}$ $\dot{5}$ $\dot{5}$ $\dot{7}$ $\dot{2}$ $\dot{1}$ $\dot{7}$ $\dot{5}$ $\dot{5}$ $\dot{6}$ $\dot{5}$ $\dot{1}$ $\dot{3}$ $\dot{2}$ $\dot{1}$

フ ジ ノ ナ チ タ マ ヘ ル ニ カ キ ナ シ ノ ヤ マ

$\dot{5}$ $\dot{1}$ $\dot{1}$ $\dot{2}$ $\dot{2}$ $\dot{3}$ $\dot{5}$ $\dot{4}$ $\dot{3}$ $\dot{3}$ $\dot{2}$ $\dot{2}$ $\dot{1}$ $\dot{0}$

ア ガ タ イ フ ス ン ノ ニ ヒ タ カ ヤ マ

p

$\dot{5}$ $\dot{5}$ $\dot{6}$ $\dot{5}$ $\dot{6}$ $\dot{5}$ $\dot{6}$ $\dot{5}$ $\dot{1}$ $\dot{3}$ $\dot{2}$ $\dot{3}$ $\dot{2}$ $\dot{1}$ $\dot{0}$

ア ガ ヒ ノ モ ト ア ハ レ サ イ コ ー ザ ン
ケ ダ カ シ タ フ ト ア ハ レ コ ノ ヤ マ

白虎隊

(と調二拍子)

白虎隊

悲壯ニ

納所氏



| | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|
| | 1. | 1 | 7. | 7 | 6. | 6 | 4. | 4 | 3. | 3 | 6. | 6 | 7. | 0 |
| 1. | ア | ラ | レ | ノ | ユ | ト | ク | ー | ミ | ダ | レ | ク | ル | |
| 2. | ミ | カ | タ | ー | ス | ク | ナ | ク | テ | キ | オ | ホ | ク | |
| 3. | ノ | コ | ル | ハ | ツ | ツ | カ | ニ | ジュ | ー | ロ | ク | シ | |
| 4. | シ | ン | シ | ノ | ツ | ト | メ | ハ | コ | レ | マ | デ | ソ | |



| | | | | | | | | | | | | | | |
|--|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|
| | 3. | 3 | 1. | 1 | 7. | 7 | 6. | 6 | 7. | 7 | 7. | 7 | 3. | 0 |
| | テ | キ | ノ | ー | ダ | ン | ガ | シ | ヒ | キ | ウ | ケ | テ | |
| | ヒ | ハ | ク | レ | ハ | ー | テ | テ | ア | メ | ク | ラ | シ | |
| | ヒ | ト | タ | ビ | ア | ー | ト | ニ | タ | チ | カ | ヘ | リ | |
| | イ | テ | イ | サ | ギ | ヨ | ク | ー | シ | ス | ベ | シ | ト | |

五七



| | | | | | | | | | | | | | | |
|--|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|
| | 4. | 4 | 3. | 3 | 6. | 6 | 4. | 4 | 3. | 3 | 2. | 3 | 3. | 0 |
| | イ | ノ | チ | チ | チ | リ | ト | ー | タ | タ | カ | ヒ | シ | |
| | ハ | ナ | ル | ー | ユ | ー | キ | ハ | タ | マ | ネ | ド | | |
| | シ | ユ | ク | ン | ノ | サ | イ | ロ | ニ | ア | ハ | ズ | ヤ | ト |
| | マ | ク | ラ | ー | ナ | ラ | ス | テ | コ | コ | ロ | ヨ | ク | |

白虎隊

(つづき)

白虎隊



| | | | | | | | | | | | | | |
|--|----|---|----|---|----|---|----|----|---|----|---|----|---|
| | 1. | 1 | 3. | 1 | 7. | 7 | 6. | 4. | 4 | 3. | 3 | 6. | 0 |
| | サ | ン | ジュ | ー | シ | チ | ノ | ユ | ー | ショ | ー | ネ | |
| | ツ | カ | レ | シ | ミ | チ | バ | イ | カ | ニ | セ | ン | |
| | イ | ヒ | モ | リ | ヤ | マ | ニ | ヨ | ザ | ノ | ホ | リ | |
| | ヤ | イ | バ | ニ | フ | シ | シ | モ | ノ | ガ | タ | リ | |



| | | | | | | | | | | | | | | |
|--|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|
| | 5. | 5 | 1. | 1 | 2. | 2 | 2. | 2 | 3. | 3 | 3. | 3 | 2. | 0 |
| | コ | レ | ソ | ー | ア | ヒ | ツ | ノ | ラ | ク | ショ | ー | ニ | |
| | タ | フ | ル | ル | カ | バ | ネ | ー | ナ | ガ | ル | ル | チ | |
| | ミ | レ | バ | ー | ハ | ヤ | ク | モ | シ | ロ | ガ | チ | テ | |
| | ツ | タ | ヘ | テ | イ | マ | ニ | ー | ビ | ダ | ン | ト | ス | |

五六



| | | | | | | | | | | | | | | |
|--|----|---|---|---|---|---|---|---|----|---|----|---|----|---|
| | 5. | 5 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 3 | 5. | 5 | 5. | 5 | 1. | 0 |
| | ソ | ー | ノ | ナ | キ | コ | エ | シ | ビ | ッ | コ | タ | イ | |
| | タ | ー | ノ | ム | ヤ | ダ | マ | モ | ツ | キ | ハ | テ | ス | |
| | ホ | ノ | ホ | ハ | テ | ー | ン | チ | コ | ガ | シ | タ | リ | |
| | チ | リ | タ | ル | ハ | ー | ナ | ノ | カ | ン | バ | シ | サ | |



一、霰のごとくみだれくる、

敵の彈丸ひきうけて、

命を塵と戦ひし、

三十七の勇少年。

これぞ會津の落城に、

その名聞えし白虎隊。

二、味方少く、敵多く、

日は暮れはて、雨暗し。

はやる勇氣は たわまねど、

疲れし身をば いかにせん。

倒るゝ屍流るゝ血。

たのむ矢玉も つきはてぬ。

三、残るは、わづかに十六士、

「一たび、あとに立ち歸り、

主君の最後にあはばや。」と、

飯盛山によちのぼり、

見れば、早くも、城落ちて、

焔は天を こがしたり。」

四、「臣子の務は これまでぞ。

いで。いさぎよく死すべし。」と、

枕ならべて、こゝろよく、

刃に伏しゝ物語、

傳へて、今に、美談とす。

散りたる花の かんばしさ。」



創立紀念日

(變ろ調二拍子)

創立紀念日

快活ニ

田村氏



1. 3 5 0 | 3. 5 i 0 | 5. i 2. 3 | 2. i 6 0 |
 1. ウレシ ウレシ タフノキノビ
 2. マノシ マノシ 、 、 、 、



5. 5 i. 6 | 5. 6 5 | 3. 2 1. 3 | 2. 0 |
 マガシヨーガクノタチソメシ
 、 、 、 、 、 、 、 、



3. 3 5. 3 | 6. 6 5 | 6. 5 6. i | 2. 0 |
 キビハマモメグリキマ
 、 、 、 、 、 、 、 、



i. 2. 3. 2 | i. i 6. 6 | 5. i i. 2. 3. 0 |
 ビーラケユクヨニサキガクテ
 マナビノミチノハナモヨ

六一

創立紀念日

(つづき)

創立紀念日



2. 3. 2. i | 6. 6 5 | 6. 5 3. 5 | 2. 0 |
 イヤトシツキニススミユ
 サラカヤシテロント



3. 3 5. 3 | 2. 2 1 | 2. 2 3. 2 | 1. 0 |
 イナビノミチチタカハリ
 キロノタフニアハレト



i. i i. 6 | 5. 5 3 | 6 5. 6 | i 2. 3. | i - i 0 |
 オモハスウレシタフノキノビ
 、 、 、 、 、 、 、 、

六〇

創立紀念日 大橋氏

第一章

うれし、うれし、今日の紀念日。

わが小學のたちそめし、

よき日は又もめぐり來ぬ。

開け行く世にさきがけて、

いや年月に進み來し、

學の道をたちかへり、

思へばうれし、今日の紀念日。



第二章

たのし、たのし、今日の紀念日。

わが小學の祝ふへき、

よき日は又もめぐり來ぬ。



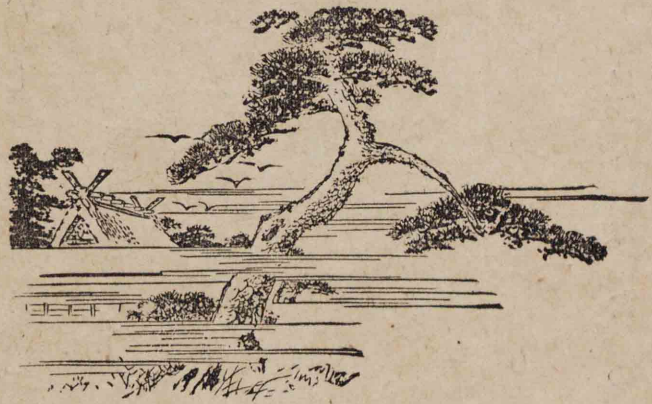
學の道の花紅葉

さらにかざして來ん年の、

よき日の今日にあはましと、

思へばたのし、

今日の紀念日。



尋常小學唱歌第六學年

定價金貳拾五錢

大正三年四月十二日印刷
 大正三年四月十五日發行
 大正七年七月一日再版發行

不許

復製
 有所權著作

| | | | | | |
|-------|----------------|----------------|----------------|-------|------|
| 印刷所 | 印刷者 | 發行者 | 同 | 同 | 著作者 |
| 宮本印刷所 | 綾部喜久二 | 佐藤勝太郎 | 田村虎藏 | 納所辨次郎 | 大橋銅造 |
| | 東京市神田區雄子町三十四番地 | 東京市神田區雄子町三十四番地 | 東京市京橋區築地一丁目六番地 | | |

東京市日本橋區新右衛門町拾六番地

發賣所

株式會社
 國定教科書共同販賣所

1907.7.17

広島大学図書

0130449468

